

美浜区打瀬地区区民対話会 議事録

1 日時 平成26年7月20日(日) 9:30~11:40

2 場所 幕張ベイトウン地域連携センター

3 参加者 区民 24人、区職員7人

4 テーマ 地域の将来像と担い手

5 議事内容

(1) 開会及び参加者自己紹介

(2) 区長講話

配布資料により、地域コミュニティ及び打瀬地区の現状について説明した。

(3) 意見交換

区民 当初、区からの案内にあった参加団体には、ベイトウン協議会及びベイトウン商店街振興組合が漏れていた。それを受け、参加団体について区民側で話し合い、これら2団体を加えてほしいと要望したが、協議会については後日追加されたものの、商店街振興組合については追加されず、今日も参加者名簿に載っていない。

このことについて、区の見解を伺いたい。失礼でしたとのお詫びがあってもいいのではないか。

区長 申し訳ございません。今後の協議においては、地域の実情を踏まえ、参加団体を検討いたします。

区民 資料中にベイトウン住民アンケート調査の結果が載っているが、これはベイトウンマネジメント円卓会議が実施し、千葉大生が一生懸命とりまとめたもの。市が実施したものではないことを一言断っていただきたかった。利用いただくこと自体は、うれしいし、ありがたいことではある。

区に3点質問をしたい。

①打瀬地区の年齢構成について、区は何が課題だと認識しているか。少子化、高齢化という抽象的な言葉ではなく、区が認識しているより具体的な課題は何か。

②資料中の人口推計などは打瀬地区のものとなっているが、今後、若葉

地区で見込まれる人口増は考慮しているのか。

③人口推計について、現に、ベイトウンの高齢者は介護施設に移り始めている。また、9つの賃貸街区があることで居住者の流動性は高く、現に8番街では3分の1程度の居住者が入れ替わっている。そのような状況で、推計どおりの高齢化が進むのかは疑問である。こういったことを考慮した推計になっているのか。

区長 ①については、高齢化が進むことにより、地域の在宅系・訪問系の介護サービスなどが今後必要となってくると推測しており、そういった社会資源の配分等が今後必要となってくると認識している。また、防犯、防災等に対応するための地域の担い手が不足することも課題だと認識している。

②については、検討はしたが、前提を増やすことで様々なケースに分けて個々に推計する必要がある、非常に複雑となるため、今回の推計ではシンプルに若葉地区の影響は考慮しないものとしている。

③については、地域からの転入・転出者の年齢の偏りを考慮した推計とはなっていない。

区民 区長はどこまでベイトウンの魅力を理解しているのか。区長は一定期間が経つと交代する。小池区長のときはベイトウンの魅力をみんなで発見するため、36景を募集しその選考委員にもなってもらった。区長が替わっても、地区の魅力は引き継いでほしい。

また、区民と行政とでは、同じ統計データを見ても、読み方や結論がずれてくる。それをこのような対話会の場ですり合わせる必要があると考える。

景観は、埋め立てを実施した県企業庁が、主に事業会計で作ったもの。市が移管を受けたときにどう管理してくれるのか。この街をどうやって維持していくのか、この街の将来をどう考えるのか。

区長 区民と行政との考え方や意見のすり合わせもこの対話会の大きな目的だと考えている。ギャップがあるのであれば、対話で認識を合わせ、同じ認識のもとでまちづくりを進めるべきと考える。

区民 高齢化が進むと介護等の問題が出てくる。スポーツ振興会では、健康寿命を延ばすことを目的に活動を進めている。現在の在籍人員は40人程度。60代・70代が多く、参加者には少しずつ健康を取り戻す方もいる。

県立幕張総合高校での総合型地域スポーツクラブの立ち上げに関しては、スポーツ振興会が仲介役となり、高校の先生と連携してスポーツを通じた健康づくりに取り組んでいる。

地域コミュニティは、このような活動を通じて育まれる。歩く、お茶を飲む、おしゃべりをする中で、街の情報が共有され、コミュニティができ

る。コミュニティができるとう犯罪の抑止にもつながる。

区長 市でも健康寿命を延ばせるよう、地域で様々な健康活動を広めることを推進する事業をおこなっている。スポーツ振興会の活動は大変ありがたく、ぜひ継続いただきたいと考えている。区としても、他の地区にこういった活動を広めていきたい。

区民 打瀬地区の4つの小・中学校の校長・学校職員は、地域が子供の教育に大きな影響を与えるという認識のもと、ベイトウンをどう育てていくかという視点を持っている。地域と連携して教育活動をしていくことで認識は一致している。地域の主たる構成メンバーが、児童生徒や保護者の年代であることを踏まえると、地域において学校の果たす役割は大きい。

そんな中で、区の地域活性化支援事業による子ども円卓会議への支援には大変感謝している。子供が提案する活動は、ラジオ体操、クリーン活動、マラソン大会、音楽的な文化活動など、子供以外の区民を巻き込むものに拡大している。こういった活動を継続的に行うことができればよいと思っている。そこで、区からの補助金の制度は3年が上限となっているが、その後も何らかの形で支援の継続はできないか。

また、私立・インターナショナルスクールに通う家庭や外国籍の家庭など、情報が行きづらい、ネットワークに入れたい区民も多いと実感している。それらの存在を大切にしていきたい。

さらに、打瀬地区には保護司がおらず、他地区から応援してもらっている状況。家庭裁判所の保護観察人数は想像以上に増えており、地域に密着した保護司がいると良いと思う。学校の取組としては、保護者の会議に民生委員・児童委員を呼ぶなど、連携を深めている。

区長 子供を通じて情報を発信して、大人に情報を流す方法、たとえば、健康づくりや認知症などを学校教育の中で時間をとって子供に教育をするなどは有効だと思う。

また、地域活性化支援事業について、補助金の期間を延ばすことは今の制度では難しいが、補助金以外で何らかの支援ができないかは検討したい。

情報が行きづらい、ネットワークに入れたい区民がいることについては、課題として認識した。

保護司については、保護司の情報が地域でも公表されなくなっているという話を聞いている。

区民 民生委員・児童委員の学校との連携としては、毎年、4校長と民生委員・児童委員で顔合わせも兼ねて会議を行っている。また、民生委員・児童委員が学校評議員として参加することで、学校の状況把握に努めている。

区民 この地域の特色として、先ほど話のあった、私立・インターナショナル

スクールに通う家庭や外国籍の家庭が多い。育成委員会としては、地域の全ての子供たちに対応できるイベントを続けている。もちつき、商店街盆踊りに加え、パトロール（子供たちの見守り）などもやっている。

市に対して思うことは、市はリサーチしているのか、市の職員には「任期の間だけ」という感覚があるのではないかと、ということ。

地域から市に要望が行き、市から地域団体へ丸投げというケースが見られる。地域団体に投げかけるにしても、リサーチしてからにしてほしい。

区長 お話を伺い、我々も気を引き締めてやっていかねばならないと感じている。市や区のリサーチについては、たしかに不十分なところもある。地域に密着して活動なさっている育成委員や民生委員・児童委員ともっと話をし、状況を把握したうえで問題に当たっていくべきだ。そのように職員を指導していきたい。

区民 高齢者に関しても子供に関しても、居場所がないと感じている。子供はマンションの集会所やベイタウンコアにたむろしている。児童館のような場所を市から提供してもらえると良い。

区民 たしかに、打瀬地区に保護司はいない。幕張西や磯辺の保護司に応援してもらっている。

私は人権擁護委員を引き受けたが、仕事の内容は私には難しいかなと感じている。学校での人権教室など、素人がやるには荷が重い。

保護司についても、市が人を探すと思うが、市と区の連携が必要となると思う。

区長 区と市は連携してやっていかなければならない。地域の方から先ほどのような意見が出るということは、連携が不足しているのだと思う。

区民 ベイタウン商店街振興組合は、2年前に法人化し、商店街の振興のため、街と連携してやっていかねばならないと考えている。千葉市が商業振興のバックアップとして様々な面で支援をしてくれたが、区に移ってからそれが途切れたように感じている。

街のにぎわい、発展には商店街が重要。商店街が衰えるとまちも衰える。現在、商店街は、夏祭り、朝市、花火大会、こども街歩き、こども110番、センター運営費の拠出など、地域のために多くの貢献をしている。区にはこの状況をよく理解していただきたい。

区長 イベントなどを通じた街の活性化や昼間の担い手として、地域に貢献いただいている。商店街の振興も含めて取り組んでいきたい。

担い手に関する意見があれば伺いたい。

区民 高齢でもあり、そろそろ社会福祉協議会地区部会の役員を引退しようと思っているが、後任がおらず引退できない。60～70代の団塊の世代のボラ

ンティア、特に男性が少ないのが実情。サロンを利用する高齢者には、ベイトウンに住む子供を頼って引っ越してきたという方もいる。ボランティアのちらしをまいているが、集まらない。ロコミの活用や講演会開催などの仕掛けを考えるが、有効な方策は見つかっていない。

区長 団塊の世代は今後の担い手と見込まれ、アンケートによると社会貢献意欲も高いが、なかなか積極的な参加は見られないようだ。みなさんから見て、どういう問題があるかを伺いたい。

区民 民生委員として高齢者実態調査で各戸を訪問しているが、70歳以下の方にはなかなか会えないし、会えたとしても拒否されてしまうケースもある。実感としては、団塊の世代でも社会貢献したいと思っている方は多くない。課題だとは思いますが、解決方法はまだ見つかっていない。

区民 40街区中、9街区は賃貸。分譲31街区のうち自治会連合会に加入しているのが28街区。このうち、行政の手先になりたくないなどの理由で地区連協に加入していない団体が8団体ある。これらの団体には、市からの情報はほとんどいかない。また、連合会に参加はしてくれているが、仕事があるので連合会役員になるのは難しく、課題だと思っている。

引退後は参加してほしいが、なかなかそういった意識を持っていただけない。自治会連合会として学校の先生とは話をする場があるが、それに加えてPTAの方々にも入っていただいて、子育て世代の方と一緒に地域のことも考えていけると、将来につながると考えている。

ベイトウンが子供たちの故郷になれば良いと考えている。今の子供たちが将来戻ってくるようなまちづくりをしたい。そのための担い手が少ないので、いろんな方に参加して頂きたい。

区民 子ども円卓会議では、子供が主体となってラジオ体操やクリーン活動を行っている。また、20年前の子供が、結婚してベイトウンに戻ってきて子育てをするケースも増えている。そういった魅力ある街を保ちたい。その一心で、ベイトウン協議会から市や県に要望書を出した。すべて行政に頼るわけではなく、我々も努力をするので、この部分だけはというお願いをしている。この思いを汲んでほしい。

区民 区長のお話の主旨は、コミュニティの主体とは何か、主体性とはどういうことかの追求だと思う。

今まで、行政は自治会を行政単位とみなして、なんでもかんでも自治会に振っていた。自治会は住民の意思決定機関と思い込んでいる。

また、以前、円卓会議の際に関谷先生がおっしゃっていた、地域団体のトップと一般住民との意識の乖離については、実際にあり、それを埋めることはできていないと感じている。しかし、手話教室には多くの人が参加

している、また、健康ウォーキングでは引っ越してきた方が街の情報を得る場ともなる。こういった地道な住民の活動が、地域団体のトップと一般住民との乖離を埋めることにつながり、そして次の担い手が登場してくるのかなと思う。

行政と区民が意見をすり合わせるこのような場は重要。また、本庁と区役所の連携を進めてほしい。学校でも福祉でも、まずは現場をよく見て、それから対話をしてほしい。

区民 地域の方々が様々な活動をしていることは、自分もそこに参加してみないと気付くことすらできない。ほとんどの人は、参加していないため、わかっていないと思う。参加することで担い手は増える。私自身、どのような形で貢献していけるかわからないが、今日の対話会がきっかけにはなった。

区民 PTAも担い手が不足している状況であり、他の地域団体と共通の課題だと感じた。

また、地域の方々に支えられて子供たちが育てられているんだということ、保護者が認識することも大事だと思う。

区民 このような会議をやっていることを初めて知った。

夏休みに校庭を開放してくれているのはこの地域だけだと思うが、とてもありがたい。子供たちも、将来この地域に戻ってきたいと思ってくれるはず。

区民 地域の将来像について、こんなに活発な意見を交わしていることに驚いた。こんなにたくさんの人が地域を支えてくださっていることは、ありがたいと感じる。対話会の開催は良いことだ。地域の声を集めて、行政に反映してもらいたい。継続すると地域の活性化、担い手の育成にもつながるのではないか。

また、ベイタウンに引っ越してきたとき、隣に住むおばあさんが街の情報を教えてくれ、車で連れて街を案内してもらった。引っ越してくる方に、街を案内するパンフレットを配るとか、街を案内するボランティアがいると、つながりが増えて安心して生活できると思う。

区民 先日、打瀬小学校の学校評議員として授業を見学させてもらった。20年前と変わらず活気ある授業風景を見て、良い伝統が引き継がれてよかったと感じた。

学校評議員8人のうち、男性は5人で、うち70代前半が4人。担い手不足は、気軽にお願ひできるネットワークがないのも一因と感じる。男性だけでなく、女性に参加いただくのもよいと思う。

区民 対話会のような活動を、参加していない人にどうやって知ってもらおうか

が重要。ベイタウンニュースには掲載する予定だが、市ではどのような形で伝えていくのか。ホームページに掲載しても、そこにそういう記事があることを周知しないと、見てもらえない。

区長 区のホームページに掲載し、自治会の地区連協などを經由して周知する方法をとりたい。地区連協に加入していない団体への周知をどうするかなど、多くの市民に知ってもらうための方法は課題だと認識している。検討していきたい。

区民 対話会はこれ1回きりではなく、今後また行うものと認識している。資料の最後に打瀬地区の課題が示されているが、解決策が示されていない。誰がどう関わっていくか、また、区としての課題への取組なども伺いたい。

参加団体について、行政になんらかの登録がされていることが要件になっているように感じる。そうではなく、地域の実情を踏まえ、幅広く声がかかるような努力をお願いしたい。

また、区民対話会は区役所の仕事、地域運営委員会は本庁（市民自治推進課）の仕事、という縦割りではなく、行政の中で連携してほしい。その方が地域の力を活かすことにつながる。

加えて、このあと要望書に関する話もあるが、地域連携センターは時限ではなく、この先もずっと地域で活用していきたい。

区民 今後も対話会は続けてもらえると期待している。

政策決定は本庁でなされるのだから、区の立ち位置が難しいのはわかるし、区民対話会ごとに区長が一つ一つ結論を出すことが難しいのもわかっているが、少なくとも街全体の課題を住民と共有してほしい。

また、区にはぜひ住民に寄り添ってほしい。

区民 区民対話会というからには、広く区民が参加できるものでなければならない。オブザーバとしての会議参加も検討すべき。

区長 今後、傍聴などの方法を考えていきたい。

区民 7月1日付で、ベイタウン協議会から市長、県知事、県企業庁長宛てに要望書を出している。この要望書について、区の意見を聞きたい。

区長 まず、要望事項1の地域連携センターについて、地域運営委員会の準備会立ち上げなどもある中で、市民局は拠点確保の支援を行うとの方向性を出しており、区としても地域の方々の活動場所は必要だと認識している。地域運営委員会のみ活動場所としてではなく、他の地域団体の利用実績も含めて必要だという主張をしていくのが良いかと思う。区としては、地域の活動ができる場所としてここは必要と考えているので、利用を継続できるよう応援はしていく。

次に、要望事項3の県企業庁が保有する未利用地については、総合政策

局と県企業庁が協議している段階であり、区としてのコメントは難しい。

次に、要望事項4の景観については、都市局の都市景観デザイン室が主体となる。これまで民地の景観については触れてこなかったが、今後は民地を含めた全体の景観について、地元の意見を踏まえて検討していくという考え方を持っていると聞いている。区としては、高齢化も進むため、車椅子等、住民の暮らしやすさを考慮しつつ、ベイトアウンの景観をできるだけ保全する方向性が望ましいと考える。また、付加価値の高い公共空間を確保していくために、そこに住む住人がそこをどう考えるか、他の地域に住む市民もベイトアウンの景観を千葉市の魅力と認めていただくことが重要と考える。

区民 地域連携センターは、元打瀬の子どもルームであり、建物を壊すという話があったが、協議会が市や県企業庁に要望して、無償で3年間の期限付きで使わせてもらっている。要望してから実現まで3~4年かかった。

ベイトアウンにこういう場所はない。本来は、現在のベイトアウンコアよりも大きな建物が建築されて、その中に住民拠点等を整備する計画であったが、バブル等の影響でできなかった。そのため住民の拠点がなくなった。

ここにいらっしゃる方も、一定の条件を満たし、センター運営委員会に諮ることで、地域連携センターは利用できる。

要望書では、3年間が経過した後も、できる限り長く使いたいという要望をしている。

要望書に対して何らかの回答があるかはわからないが、今日は美浜区長としての意見を伺った。区長の立場では答えづらい内容であったが、その中でお答えいただいた。ありがとうございました。

(4) 閉会